

オーエスキー病 とは

オーエスキー病ウイルスを原因とした豚の病気です。本病に感染すると異常産や神経症状の発症により養豚業の生産性を低下させることから、家畜伝染病予防法の届出伝染病に指定されています。本病はワクチンによるコントロールが可能であり、諸外国ではワクチン接種の徹底等による清浄化の成功事例があります。

なお、オーエスキー病は、ヒトに対する病原性はありません。

1 原因（病原体）
豚ヘルペスウイルス 1

2 感受性動物
豚、いのしし

3 症状
発熱、嘔吐、下痢、神経症状、
流死産を起こすことがある。



【神経症状（旋回運動）を示している発症子豚】

（出典：家畜疾病総合情報システム）

4 発生状況

（1）国内

近年、16都県（※）において感染豚が確認されており、清浄化対策を推進しているところ。残る31道府県への拡大は阻止されている。

（※）青森、岩手、宮城、秋田、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、熊本、宮崎、鹿児島

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
戸数	3	5	3	6	3
発症頭数	16	13	5	98	6

（家畜伝染病予防法に基づく届出実績）

（2）海外

世界各国（近年、欧米各国では清浄化が進みつつある）

5 診断法

病畜等からウイルスの分離や抗体の検出を行う。

6 防疫対策

本病には治療法がないため、オーエスキー防疫対策要領に則し、各地域一体となって清浄化段階に応じたワクチン接種、抗体陽性豚の淘汰、消毒等の衛生管理の徹底が進められている。